

2 0 1 9 年 度

# 事 業 報 告

社会福祉法人にじのこ福祉会



## 概 要

### . にじのこ福祉会の概要

#### 1. 法人の概要

経営主体 社会福祉法人 にじのこ福祉会  
 所在地 岡山県岡山市中区桜橋三丁目1番51号  
 T E L 086-272-4111  
 F A X 086-272-4171  
 代表者 理事長 浪尾淑子  
 法人設立年月日 2010年7月1日

#### 2. 理事会・評議員会 開催状況

##### (1) 理事会開催状況

開催年月日	出席者人数	議 題	欠席者氏名	出席監事氏名
2019 5/24	理事7名 監事2名	<b>第1回理事会</b> 第1号議案 2018年度事業報告および決算について 第2号議案 定款変更について 第3号議案 新役員の選任について 第4号議案 評議員会の招集について 第5号議案 保育所の認可に関する変更事項について 報告事項		岡野鈴子 藤原弘典
2019 6/24	理事7名 監事2名	<b>第2回理事会</b> 第1号議案 理事長の選任 第2号議案 業務執行理事の選任 報告事項		山崎由佳利 藤原弘典
2019 8/5	理事7名 監事2名	<b>第3回理事会</b> 第1号議案 2019年度補正予算について 第2号議案 運営規程の改定および重要事項説明書について 第3号議案 保育所の認可に関する変更事項について 第4号議案 処遇改善について 第5号議案 公立幼稚園・保育園の民営化に伴う運営事業者への 参入について 第6号議案 評議員会の招集について 報告事項		山崎由佳利 藤原弘典
2019 9/10	理事7名 監事2名	<b>第4回理事会</b> 第1号議案 重要事項説明書について 報告事項		山崎由佳利 藤原弘典
2020 3/6	理事7名 監事2名	<b>第5回理事会</b> 第1号議案 2019年度補正予算について 第2号議案 2020年度事業計画書について 第3号議案 2020年度当初予算について 第4号議案 2020年度役員等報酬総額について 第5号議案 運営規程の改定および重要事項説明書について 第6号議案 評議員会の招集について 第7号議案 定款細則について 第8号議案 労働組合への回答書について 第9号議案 当座貸越の契約更新について 報告事項		山崎由佳利 藤原弘典

2020 3/25	理事5名 監事2名	<b>第6回理事会</b> 第1号議案 規定類の改定および協定書について 報告事項	入江慶太 藤原校子	山崎由佳利 藤原弘典
--------------	--------------	---	--------------	---------------

(2) 評議員会開催状況

開催 年月日	出席者 人数	議 題	欠 席 者 氏 名	出席 監 事 氏 名
2019 6/24	5名	<b>定時評議員会</b> 第1号議案 2018年度事業報告および決算について 第2号議案 新役員の選任について 第3号議案 定款変更について 報告事項	檀上智子 長尾和季 緋田美代子	山崎由佳利 藤原弘典
2019 9/10	8名	<b>第2回評議員会</b> 第1号議案 2019年度補正予算について 第2号議案 定款変更について 報告事項		山崎由佳利 藤原弘典
2020 3/25	7名	<b>第3回評議員会</b> 第1号議案 2019年度補正予算について 第2号議案 2020年度事業計画書について 第3号議案 2020年度当初予算について 第4号議案 2020年度役員等報酬総額について 報告事項	檀上智子	山崎由佳利 藤原弘典

### 3. 監事監査の実施状況

(1) 監査日程等

2019年5月20日(月)13時30分から

岡野鈴子監事(業務監査)・藤原弘典監事(会計監査)

(2) 監事監査の評価

○保育事業について

- ・保育全体において、園長が掲げている目標を、みんなで丁寧に運営していた。
- ・計画も細かく丁寧に立案され、職員の育成に力を入れているが、子どもを捉える目が養われる書き方だった。特に、クラスの運営では、保育士の動きが人ごとに細かく記載され、実践後の課題や努力目標の記載もあった。
- ・個人記録も、子どもの細かい様子が記録され、子どもが、生き生きのびのび落ち着いた生活を送れていることに繋がっていると感じた。
- ・実践を、丁寧に実施して保育士が育てば、子どもを見る目が養われ、子どもを捉えた日案も立案できる。保育士も、予習をしながら復習をして成長できると感じた。
- ・障害児保育の記録は公立保育園の書式をもとに作成されており、発達障害の種類や療育機関の名称など一目瞭然でまた、障害児の細かい様子や配慮等ていねいに記録されていた。個別に記録することで関わり方など見えてくるものがあると思うので続けていくことを提案する。
- ・安全対策では避難・消火訓練は毎月実施されており、火災・水害・地震も計画通り行われていた。

- ・不審者の訓練は実施されていなかったが、不審者に対する避難訓練でなくても年に1回は職員会議で確認する事を提案する。
- ・交通安全対策は、岡山市交通安全対策課の交通安全指導員による実践指導を年3回受けている。大津市の事故を受けて園外散歩の経路の見直しをして危険個所の確認、経路の変更をしている。過去、園外保育中に死亡事故があり園外保育マニュアルを作成している。この内容についての見直し、確認等話し合いもなされていて安全保育に対する姿勢がうかがわれる。

#### ○計算書類及び運営・管理について

- ・資金収支予算書（補正予算を含む）は定款の定め等に従い適正な手続きにより編成されている。
- ・隣地の購入など大きなこともあったが、その都度理事会においてしっかりとした審議が行われている。
- ・その他、財務関連の処理は適切に行われている。
- ・岡山市が実施した指導監査の改善指導も適切に対応していることを確認した。
- ・事業の経営状況は適正であるが、一時預かり事業の利用者減など今後、保育を取り巻く状況が大きく変わる可能性も否定できない。どのような状況でも対応できる経営基盤を構築していくことを期待したい。
- ・昨年度指摘させていただいた、職場環境づくりや人づくりの部分は非常に努力されていることが感じられた。職員の新規採用は今後も厳しい状況が予想されるので、職員や地域の方々に協力をおねがいするなど様々な角度から取り組んでもらいたい。
- ・公開保育を2回実施している。高知市の保育園からは経営相談も受けており、岡山協立保育園が外部に高く評価されているものと思われる。職員にはこれまでの実践に確信を持ってもらい、今後の奮闘を期待したい。

## 4. 職員採用状況

### (1) 2020年度 職員採用状況

保育士 2名

\* 新卒者（山陽学園短期大学） 三木 寧々

\* 新卒者（岡山情報ビジネス学院）上元 彩香

栄養士 1名

\* 新卒者（山陽学園短期大学） 白峰 杏奈

### (2) 2020年度 職員採用試験

（保育士）2019年 8月 3日（土）9:00～14:00 新卒1名採用

2019年10月12日（土）12:30～16:30 新卒1名採用

（栄養士）2019年10月 5日（土）12:00～16:00 新卒1名採用

### (3) 2020年度 職員採用状況

職員採用状況については、全国的な保育士不足が進む中、「岡山市私立保育園・認定

こども園園長会就職フェス」「山陽学園短期大学保育士合同面談会」などに参加して、直接岡山協立保育園の話を聞いてくれた学生が応募してくれ採用につながった。

実際には、園長や保育士が参加し、保育園の保育方針と保育の内容、労働条件と職員の処遇、現場職員の声などを載せた掲示物やアルバムなどを利用して説明した。

毎年欠かさず、卒業生を紹介して下さっている山陽学園短期大学の教員からは、「岡山協立保育園に就職した学生は長く務めることができます。学生を育てて頂いてありがとうございます。岡山協立保育園は、就職を希望する学生が多い保育園です。職場環境が良く、学校としても安心して学生を送ることができます。」と、複数の職員さんから同様の話を聞いた。

そのほかの採用活動としては、岡山県内の保育士養成校及び、県外の採用経験のある養成校に求人票を送ることで求人告知をしている。

今期は、実際に採用試験を受けた者は3名で、そのうち2名を採用した。また、現職保育士の知り合いで新卒保育者が、当園の採用試験を希望しているとの申し出もあったが、正規の採用枠はすでに満たされていたため断った。

今期については、短時間保育士からフルタイム保育士に変更した者が3名おり、その内訳は、直接雇用が2名、派遣から直接雇用への切り替えが1名だった。

前年度の採用者は、求人票を出しても応募者がいなかったが、保育の理念や保育内容はもとより、法人が先駆的に進めてきた職員の処遇改善（事務時間の保障、希望休暇の取得、有給休暇の消化期間中の消化など）が功を奏した結果だと思われる。

## 5. その他の事業活動状況

なし

# 事業報告

## ．法人事業報告

2017年4月1日に実施された、国による社会福祉法人の制度改革から2年を経過し、役員の変更を6月の定時評議員会で実施した。法人設立時からの役員だった岡野鈴子監事が辞任し、山崎由佳利監事を新たに選任した。

2020年1月には、岡山市指導監査の法人監査が新制度に移行してから初めて実施された。新たな手続きや法律の解釈等について、岡山市監査指導課より様々な助言をいただき、口頭指摘が3件あったものの、大変よく整備ができていると評価をしていただいた。

2019年4月1日には、(株)協同プランニングより駐車場用地として借りていた土地を取得して送迎用駐車場とした。2018年12月に取得後、活用を開始していた南側園庭と一体的な拡張整備工事を実施した。

### 1．岡山医療生活協同組合との連携

#### (1) 岡山医療生協の保育事業に関する検討会

2019年8月より定期的に岡山医療生協 岡山協立病院 院内保育検討プロジェクトに参加をして、認可保育園への待機による職員の育休復帰が難しい状況など地域の実情について、また岡山協立保育園の状況について情報交換を行った。

岡山市が認可保育園の受け皿を増やしているとはいえ、居住地域に関係なく旭東小学校区に位置する岡山協立保育園の新入園希望者は依然として増加している状況を踏まえて、次年度に向けて岡山協立保育園が一時保育の受け入れ態勢を整えて、地域の保育環境を向上することに努め、積極的な地域の受け入れを実施したにもかかわらず、利用希望が少なく、一時保育事業の収支で損失が出た部分について、岡山医療生協が法人に寄付をする趣旨の覚書を法人間で交わした。実質的には、岡山医療生協が岡山協立保育園の一時保育事業を支えることで、地域の子育てを応援する社会貢献となる。

#### (2) 地域の子育てを応援する活動

毎月開かれる「子育てサポート委員会」に出席し、医療生協とともに子育て支援に取り組んだ。具体的には、お母さんたちの「ママ's カフェ」や「タッチケア」、小学生を対象とした「宿題応援隊」、お母さんや祖父母世代が参加する「子育てサポーター養成講座」など、様々な世代の子育てに関する活動をサポートした。

また、今年度は、親と子の健康まつり「どんぐりフェスタ」が開催された。正規職員が全員参加し、遊びコーナーのスタッフとして活躍するとともに、模擬店に出店するなど活躍した。当日は、お天気にも恵まれ、地域の子育て世代を中心に527名の参加があった。今後も、子育てサポート委員会の取り組みを通じて、地域の子育てを支える活動に取り組みたい。

#### (3) 園児と高齢者との交流

園児(5歳児)は、毎月開かれる「旭東学区ふれあい会食」に参加し、高齢者との交

流を楽しんだ。最近では、ふれあい会食に参加する高齢者の数が減っているが、核家族化が進む中、日常的に高齢者と関わるのが少ない園児にとって、貴重な体験になっている。今後も、旭東支部と連携しながら進めていきたい。

## 2. 職員が働き続けられる職場環境づくり

### (1) 職員給与の改善について

2014年度以降、毎年、人事院勧告に基づく公定価格の人件費分が改定されており、2019年度は+1.0%の増加となったため、2014年度からの累計は8.2%となった。また、保育士不足を受けて処遇改善等加算の加算率が、前年度より+1%の改定で6%となった。岡山市による保育士処遇改善として、2017年度以降、3年限りの時限補助金として岡山市民間保育士等処遇改善事業補助金が2%支給されていた最終年度にあたるが、岡山市の待機児童解消が計画通りに進めることができなかつた一因には保育士不足が影響しており、次年度からは+1%の引き上げにより3%の補助金が支給されることと2020年3月に決定した。

これらにより、給与改定の課題であった前歴加算の改定(2014年度予算で2015年度実施)、住宅手当の創設・初任給含む6年目までの給与改定(2015年度予算で2016年度実施)、サポーター手当の創設・キャリアパス構築に関連する役付き職員の給与の創設と見直し・短時間勤務職員の時給改定と通勤手当の創設(2016年度予算および2017年度予算で2017年度実施)、奨学金返還支援手当の創設(2019年度予算で2019年度実施)などの改善をしてきた。また、人事院勧告に伴う一時金の引き上げは、2016年度から継続的に毎年実施してきており、2019年度は年間4.5ヶ月分の支給となった。

2014年度以降の改定で支給された金額は、毎年、国や地方自治体の規定により職員の人件費として使われているかの確認がなされる。2019年度は、2014年度以降の改定分に相当する収入が、総額で約2,145万円になっており、法人の改定分としての支出額は約2,278万円になっている。よって、改定に伴う法人の持ち出し額は、103万円程度になっている。運営費の中でも、人件費部分が大きく変動する中で、確実に人件費として支給することと、法人の持ち出しを抑えることを両立することで、経営の安定を図っている。

### (2) 働き続けられる職場環境づくり

保護者の労働を支え、子どもにより良い発達を保障する保育園職員は、社会の多様なニーズへの対応が求められるとともに、個々の子どもや家庭への細やかな配慮が求められる。そんな中、保育労働は一段と過密化し、職員に大きな労働負担やストレスがかかっている。働き続けられる職場環境づくりでは、「子どもの幸せと家族の幸せと職員の幸せを同時に保障する」ことが求められ、保育園職員のそれぞれの実情を把握した職場環境づくりが必要になると考えている。そして、ここ数年は、様々な取り組みを試みることで働き続けられる職場環境の改善に力を入れて取り組んでいる。



## 希望休暇の取り組み

子育てや介護など私的な予定を勤務表に反映できるように、誰でも「希望休暇届出書」を提出でき、それに従った勤務を作成している。希望休暇は、多い月と少ない月があるが、1か月に約60日程度ある。そのために必要な「代替え職員」を、各年齢に準担任として配置することで、ほぼすべての希望休暇を叶えるとともに、子どもへの影響を最小限に留める努力をしている。

## 有給休暇取得

以前は、特別なことがない限り有給休暇の取得は難しかった。近年は、計画的に有給休暇の取得ができるようにし、一年間を通して体制が可能な時は、取得日数が少ない職員から優先的に有給休暇を消化している。

また、今年度は初めて、有給休暇を消化期間中に取得する取り組みを行い、職種や処遇に関係なく、全職員が自身の有休を流すことなく取得することができた。

2019年度の有給休暇平均取得日数は、正規職員で平均12.2日(19名)、非常勤フルタイムで平均8.6日(2名)、非常勤短時間で平均13.5日(11名)になっている。

## 事務時間の保障

保育士は、勤務時間のほぼ全てを子どもと過ごしている。計画や記録などの事務時間は、通常の保育体制の中では難しい。そんな中、多くの保育士は、持ち帰っての残業を余儀なくされていた。しかし、近年は、個人情報の管理が厳しくなり、園外への書類の持ち出しを禁止しているため、事務については残業せざるを得ないが、家族に負担をかけるため、それも難しい状況があった。

そこで、これらを解決するため、希望休暇取得を目的に配置した「代替職員」を、事務保障の代替にも活用するようにした。この取り組みにより、クラスリーダーは月1日程度、担任は半日程度の事務時間の保障ができた。月末や月初のタイミングで事務時間を保障するところまで細やかに対応できてはいないが、まとまった時間を子どもから離れて、必要な書類に記録をしたり計画することができるので保育士からは喜ばれている。

給食職員は、調理温度や衛生面での日々の記録が必要となる。また、翌日の献立指示書を基にした確認会議の実施など、その日のうちに行う業務が多いことから、給食職員を定数より増やし対応している。2019年度は、岡山市アレルギー児対応調理員等加配助成事業補助金の要件が緩和されたことにより、午前8時から12時まで勤務する給食職員が、最低基準を超えて配置されている場合は支給されることになった。栄養管理加算については、消費税増税による公定価格改定の際に、従来の制度を拡充することを計画していたが、副食費の算定根拠等の混乱があり、直前に国が制度の撤回をしたが、2020年度から拡充されることが決まっている。個々の子どもの実態に即した補助金や食育の取り組みができるような体制強化が徐々に進められきているため、園としては定数以上の人を配置している。

## 相談しやすい体制づくり

以前は、主任が各クラスの相談窓口になり、直接指導する方法で取り組んでいたが、現場保育士が、日々の悩みや気づきを相談しやすいように、3歳未満児の各年

齢に相談指導の担当者としてサポーター（中堅保育士）を配置した。また、中間層を作り、果たすべき役割を受け持つことで、次世代の管理職を育成する上でも体系的に取り組めると考えた。

担任からは、「相談がしやすかった」「話し合いに入ってもらって、的確にアドバイスをもらえてよかった」などの感想があった。サポーターからは、「3未、3上の連携がとれた」「3未の子どもの育ちを客観的にみることで、3上に向けて何が必要か、考えるきっかけができた」などの感想があった。

#### キャリアパスの体制作り

キャリアパスの対象者には、研修の受講が義務付けられている。これらの研修については、研修後発行される証明書が、対象者個人の取得した資格として取り扱われるため、受講者は有給休暇を使い自費で研修に参加することにした。

また、キャリアパスの対象者には、経験年数や園内の責任と業務量に応じて、支給金額を設定し、その役割を果たしてもらっている。どの職員も自分に与えられた役割や任務を一生懸命果たそうとする姿が見られた。業務や支給金額については、理事会の承認を受け実施している。

# 概 要

## ．岡山協立保育園の概要

### 1 ．地域の概要

岡山協立保育園は、岡山駅から車で約 10 分程度のところに位置しており、高齢者とともに、近年では乳幼児も増えている地域になっている。また、周囲には多くの認可保育園や認定こども園、無認可保育所などがあり、保護者は勤務地に近いなどの理由で利用するケースが多くなっている。

園児が在住している地域は、3 月末日の統計で、中区が一番多く約 66.2%、南区が約 17.8%、北区が約 12.8%、東区が約 3.2% になっている。地元東山中学校区の割合は、全体の約 25.5%（旭東小学校区約 9.6%、平井小学校区約 15.9%）を占めている。園児は、岡山市内全域から登園しており、31 小学校区から通っている。

### 2 ．施設の概要

- ・敷地面積 4180.52 平方メートル  
（うち駐車場の一部は借地... 394.64 平方メートル）
- ・延床面積 1144.47 平方メートル  
（園舎 792.49 平方メートル・増築園舎 251.29 平方メートル・屋外倉庫 20.72 平方メートル）

### 3 ．定員

- ・利用定員 120 名（各年齢 20 名）
- ・認可定員 165 名

### 4 ．受入年齢

- ・生後 57 日目から就学前まで

### 5 ．保育時間

#### （1）保育標準時間

- ・午前 7 時から午後 6 時まで

#### （2）保育短時間

- ・午前 8 時 30 分から午後 4 時 30 分まで

#### （3）一時預かり事業の保育時間

- ・午前 7 時 30 分から午後 6 時まで

### 6 ．延長保育事業

- ・午後 6 時から午後 7 時まで

## 7. 職種別職員数

3月末日の人数

( ) は非正規の人数・派遣を含む

形態 \ 職種	施設長	主任 保育士	保育士	栄養士	調理員	事務員	保育補助	合計
常勤職員	1人	2人	14(1)人	3(1)人		1人	1(1)人	22(3)人
短時間職員			12(12)				1(1)	14(14)
合計	1	2	26(13)	3(1)		1	2(2)	35(17)

## 8. 年間利用児童数

(1) 定員超過率 123.2% (昨年度比 + 5.3%)

(2) 月平均在籍数 147.8人 (昨年度比 + 6.3人)

(3) 3月は、「新型コロナウイルス」による登園自粛のため、3月2日から

3月末まで園児の欠席が多かった。3月登園率：平日 80.3%:土曜日含む 69.3%

種別 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳	7人	7人	10人	12人	13人	14人	16人	17人	19人	19人	20人	22人	176
1歳	23	23	23	23	23	23	23	23	24	25	25	25	283
2歳	25	25	25	25	25	25	25	27	27	27	27	27	310
3歳	26	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	323
4歳	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	25	25	310
5歳	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	372
合計	138	139	142	144	145	146	148	151	154	155	155	157	1774
入園児数	0	1	3	2	1	1	2	3	3	1	1	2	20
退園児数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

## 9. 一時預かり利用児童延べ人数

(1) 年間開園日数 239日 (昨年度比 - 2日)

(2) 一日平均利用人数 4.10人 (昨年度比 - 6.09人)

(3) のべ利用人数 981人 (昨年度比 - 1475人)

種別 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就労・就学	48	14	15	24	25	47	38	38	44	54	44	74	465
緊急 (出産・傷病・慶弔)	0	0	0	0	0	0	3	4	4	0	0	0	11
私的理由	42	36	52	45	41	44	47	59	39	54	46	0	505
合計利用数	90	50	67	69	66	91	88	101	87	108	90	74	981

(4) 一時保育の動向

地域の利用者の受け入れを開始して、満9年が経過した。利用理由は、緊急が3%、私的が50%、就労が47%になっており、前年度に比べると、私的利用が36%増加して、就労が36%減少した。

2019年度は、一時預かり事業の担当保育士が変わり新しい体制となったため、新規の利用者を拡大した。説明会等への問い合わせにより、2歳児クラスとの連携や0歳児クラスとの連携を行い事業を進めた。

(5) 感染対策

新型コロナウイルスが流行し、2月以降はいつも以上に感染対策が必要になった。2月には、サージカルマスクやアルコール消毒、アルコール消毒での手指噴霧器等を購入した。3月からは、登園時は、園児と保護者の手洗い・うがい・手指消毒を行い、その場での検温と健康記録を徹底した。職員は出勤時に検温と健康観察表への記入を義務付け、健康状態の把握に努めた。また、正しい手洗いや正しいマスクの着用方法なども学習した。3密を避けるため、3月の行事は中止や縮小を余儀なくされた。

10. 年間行事

(1) 年間行事

実施月	保育園行事	健康管理 安全管理 災害訓練	地域行事への参加 行政・他団体との連携行事
4月	進級おめでとうの会 いのちを大切に 端午の節句の会		卒園児の会 お茶会(福祉交流プラザ旭東)
5月	劇団風の子観劇 保護者総会・父母の会総会 クラス懇談会		交通安全教室 (岡山市生活安全課)
6月	クラス懇談会 徒歩遠足 平和の会	尿検査(3上) フッ素塗布 定期健康診断 救命救急講習会	旭東こどもまつり(旭東小学校)
7月	七夕の会 お泊り保育		
8月	プールじまいの会	歯科検診 就学前健康診断	宿題応援隊(岡山医療生協) 民話の会(旭東児童センター) おばけやしき(旭東児童センター)
9月	おつきみかい 中秋の名月の会		
10月	ちびっこまつり 芋掘り遠足(バス)	フッ素塗布	4園交流運動会 (旭東幼稚園・旭東保育園・博愛会保育園・岡山協立保育園)

11月	徒歩遠足お泊り保育 就学前懇談会 徒歩遠足	定期健康診断	交通安全教室 (岡山市生活安全課) 保育街頭署名
12月	おおきくなあれのつどい クリスマス会 徒歩遠足	避難・通報・消火訓練	
1月	七草の会 鏡開きの会 徒歩遠足 クラス懇談会		絵本を楽しむ会(旭東小学校)
2月	節分の会 角笛シルエット劇場観劇 クラス懇談会 *ゆり組未実施の為資料配布	入園前健康診断 フッ素塗布 ブラッシング指導 (5歳児)	絵本を楽しむ会(旭東小学校)
3月	卒園式 *ひなまつり茶会とお別れ遠足は中止		交通安全指導
定例	園庭開放 個人懇談または家庭訪問	避難・消火訓練 身体測定	ふれあい会食

## (2) 行事の取り組みをとおして

園では、年間を通して、子どもたちに様々な体験を、豊かに保障することを心がけており、子どもたちは、季節の行事を楽しみにしている。

また、保育の内容を発表する行事では、「プールじまいの会=プール活動の発表会(8月)」「ちびっこまつり=体育的活動の発表会(10月)」「おおきくなあれのつどい=表現活動の発表会(12月)」などに期待を持って取り組むことが出来ていた。

特に「ちびっこまつり」では、担任が個々の子どもの力を知り、ひとりひとりに合った取り組みを提供することが出来た。保育経験が浅い保育士が多い中で、子どもの姿に合った具体的な手立てを、サポーターや主任、園長などと共に実践し共有する中で、変化していく子どもの姿を捉えることが出来た。

ただ、3月の行事は、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐためすべて中止となったが、「卒園式」だけは行った。卒園式では、3蜜を避けたうえで時間を短縮して行うよう岡山市から指導があり、今年は例年と全く違った形式の卒園式となった。来賓と在園児代表の4歳児は参加せず、3つのクラスに分かれて卒園証書の授与式を3回行った。卒園式は、保育園で過ごした日々の集大成であり、保育園最後の晴れ舞台でもある。この日に、通常通りの卒園式ができなかったことは、子どもも、保護者も、職員も悔しい思いだったと思う。本当に残念だった。でも、子ども達は、堂々とした振る舞いで証書を受け取り、例年のように集中力もあり歌も上手に歌っていた。子どもが証書に描いた絵が、丁寧に描かれていることに感動し、私たち保育士も、成長した子どもの姿を見て自分たちの保育に対して自信が持てた。最後には、参列者全員で記念写真を撮った。

2019年度の各行事への参加延べ人数（園児・保護者・地域の方・職員）

- ・ちびっこまつり参加者 554人（前年比15人増）
- ・おつきみかい参加者 520人（前年比76人増）
- ・おおきくなあれのつどい見学者 162人（前年比12人増）

## 11. 職員会議及び総括・方針会議

職員会議 毎月第1土曜日

総括会議・方針会議 2/22(日)・2/23(月)・3/7(土)・4/4(土)

## 12. 職員研修

(1) 研修状況

	主催	研修名	日時	参加者
全国	全国幼年教育研究集会	全国集会	7/27～28	1人
	全国保育問題研究会	夏季セミナー	8/24～25	3人
	全国保育団体連絡会	全国集会	8/3～5	4人
	中・四国経営懇	総会・学習会	6/30～7/1	1人
	全国私立保育園連盟	中・四国ブロック研修会	9/19	1人
	野育の会	野育めぐり旅	9/21	2人
香川県	香川県私立保育園連盟	岡山協立保育園 視察研修	11/20	
岡山県	岡山県民間保育所協議会	新任保育士研修	3/10	2人
	岡山県栄養士会	特定給食施設関係者	9/1	1人
	岡山県私立保育園連盟	特別保育セミナー	10/24	2人
		視察セミナー	8/7	2人
	岡山県保育協議会	岡山県保育研究大会	1/21～22	2人
津山市	インターナショナルすこやかキッズ	保育・教育に生かす運動遊び・運動会種目	4/14	3人

倉敷市	倉敷コダアイ芸術教育研究所	倉敷新任保育士のための乳児保育研修	4/21	2人
		保育実践研修（乳児）	6/5 7/3 9/4 10/23 11/27 1/22	4人
		環境認識例会 （幼児の遊びと環境）	7/6 9/21 11/30	3人
		公開保育（連島東保育園）	6/24	1人
		公開保育（昭和保育園）	2/4 2/14	2人
岡山市	岡山市保育協議会	質向上のための園内研修	6/4	1人
		乳幼児期の発育・発達と食事	6/14	1人
		乳児期の発達と保育	6/28	2人
		危機管理	7/25	1人
		発達が気になる子どもの理解と支援	8/29	2人
		子どもの接触機能の獲得	9/30	1人
		保育の理念と目標	10/23	1人
		乳幼児の睡眠と健康	11/5	1人
		子育て支援において保育者に求められる姿勢	11/28	1人
		気になる子どもの理解と支援	12/12	1人
	岡山市保育協議会 4ブロック	給食調理員・衛生管理者研修	11/8	1人
	研究委員会	年18回程度	1人	
	岡山保 問研	岡山保健所 岡山保問研 例会	特定給食施設栄養管理者研修会	9/30 1/31
食育			2か月に 1回程度	2人
乳児				5人
障がい児				4人
あそび				5人
園内研 修	園内保育実践研修会	保育観察（野崎末子）	10/28～11/2	全職員
		事例検討（田中真介） 講演会（田中真介）	9/6～7	全職員
	視察研修会	たかつかさ保育園見学	7/22	5人
		若竹保育園視察	10/15	1人



## (2) 公開保育

ここ数年、毎年全国各地から公開保育の依頼を受けている。今年度は、「香川県私立認可保育園連盟」から依頼があり公開保育を実施した。

香川県私立認可保育園連盟から、23名の園長先生や幹部保育士などが参加した。今回は、「工夫された保育環境」と「職員育成と職員処遇の改善への取り組み」がテーマだった。まず初めに、園長が園内を案内し、見学者のその場での質問には、主任2人が対応するようにした。その後、園長が、職員育成と職員処遇の改善への取り組みを、資料を基に話した。

参加者からは、以下のような感想を頂いた。

- ・子どもたちが、のびのびしていて落ち着いている。
- ・保育士が、子どもに対し穏やかでゆったりと関わっていた。
- ・園内が、非常に工夫された作りになっていて驚いた。
- ・職員が保育しやすい環境になっていて、動線が良いと思った。
- ・職員のことを考えて、様々な工夫を行った運営をしていることが分かり勉強になった。

## (3) 全国保育問題研究会夏季セミナー提案

「合意づくりの土台をどう育てるか」をテーマにした提案を、園長が行った。その中では、安心し、気づき、表現し、変わる、職員集団をめざして、園内で考えたことや取り組んできたことを発表した。提案者の園長は、「自分自身が保育者として歩んできた道のりを丁寧に振り返ることができた。変えられるのは自分だけだと教えてくれた恩師に感謝している。」と感想を述べた。また、参加者からは、「感動するとともに、初心に帰ろうと思いました。」「発表を聞き、このようなことに気づけたのは、提案者が覚悟を決めたからだと思いました。」などの感想が聞かれた。参加した当園の職員からは、職員みんなにも聞いて欲しいとの話があり、その後の職員会議で発表し、今に至るまでの経緯について確認した。

## (4) 職員研修

毎年、さまざまな研修会に参加しているが、今年度も、園内に講師を招いての研修会に力を入れた。これは、若い職員が多くなっている中で、職員みんなが保育を観察して分析したり、講師に助言を頂くことで、理論と実践を結び付ける力を身につけることを目的にしている。

また、発達学習にも力を入れ、子どもの発達段階を理解し、保育を具体化するために職員みんなが学ぶ機会を大切にしたい。今年も、園内研修を公開し、ともに学ぶ仲間がいることで、保育をよりよいものにしたいという思いを共有でき、職員の励みになった。

研修内容は、以下の通りである。

保育実践学習【講師：野崎末子（保育環境・育児アドバイザー）】

今年度は、全クラスを対象に1週間かけて観察を実施した。観察後は、担任、サポーター、主任、講師が、実践場面を録画した動画を使い、自分の保育を客観的に見ながら課題を明らかにしていった。子どもの現状や発達にあった環境構成、子どもの日課や大人の動きの見直し、子どもにとってのあそびとはなど、クラスが抱えている問題について、解決策を職員同士で話し合った。その中で、気が付いたことや提案されたことについては、自分で取り組めることから実践していくように心がけた。

話し合った中身を、主体的に実践に取り入れる中で、子どもがより能動的に遊べるようになったり、子どもと大人の関係性がより深まったりする変化も生まれた。職員は、自分がやった

この結果を実感することができ、自信につながったと感じている。

また、観察の中で、講師から細かい部分の問題点を指摘される場面もあったが、職員は自らの保育の向上のために助言を受け入れる部分と、取り組みの意味を参加者に説明したり、今までの経過の中での一場面として理解していることなどを話し、指摘された内容を参加者と共有する場面もあった。このように、自分の考えを持ち、対話して保育の手立てを自己決定する姿が見られるようになってきている。

発達研修【講師：田中真介（京都大学国際高等教育院准教授）】

発達研修会は2014年度から継続的に実施している。「発達がわかれば子どもが見える」を合言葉に、みんなで学び共有することや実践することを丁寧に行ってきた。

第1期（2014年度）は、「3歳未満児」と「3歳以上児」の2つの段階に分け、2講座各2時間でおこなった。

第2期（2015年度～2017年度）は、「乳児期前半・後半（0歳～1歳半）」「幼児期前期（1歳半～2歳）」「幼児期中期・後期（3～6歳）」の3つの段階に分け、3講座各3時間で行った。

第3期（2018年度～2022年度）は、「乳児期前半」「乳児期後半」「幼児期前期」「幼児期中期」「幼児期後期」の5つの段階を、各3時間で研修するものになっている。

今年度は、「乳児期後半」の学習会を行った。今回も、公私立保育園や無認可保育園の園長や保育士、保護者、特別支援学校の教員、保育研究者など幅広い参加があった。子どもの育ちは、単に「出来なかったことが出来るようになる」といった単純なものではなく、連関しながら総合的に質が変わっていくことやエネルギーの強さが大切であることなどを学び、参加者にも好評だった。また、先生の専門分野でもある「予防接種」についての学習もした。

保育実践の研修では、2歳児の気になる子どもについて、実際の保育場面での子どもの様子や保育士の関わりを、主任や園長、講師に観察してもらい、事前に、担任が用意した分析資料と共に、発達段階の確認や援助の仕方について話し合った。実際に、講師と職員で事例検討を行うことで、気付いたことを出し合い、実践の中でその子の発達を知り、働きかける方法を見つけ出したり取り組みを認め合うことは、職員にとって生きた学びになり自信につながると思った。

総括・方針会議

毎年、合宿で行っている研修会だが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、宿泊は中止し、園内で行った。

『気づき発表会』

一年間を通して、自分が気づいたことをみんなの前で発表した。職種や経験によって、発表する内容には違いがあるが、職員は自分が話す内容をノートにまとめ、少しでもわかりやすく伝えたいと努力していた。発表内容のテーマは多岐にわたるものだったが、ひとりひとりが、自分で考えて試したことをリアルに発表していた。

発表内容には、以下のようなものがある。

- ・嬉しい時も悲しい時も、キャーという叫び声で表現する新入園児の感情を育てる取り組み
- ・不安感が強いシングルマザーとの細やかなやり取りを通じて、母親だけでなく子どもの表情が良くなった取り組み

- ・一つの場面を通して、担任同士が自分の考えを述べることを繰り返すことで、相手の気持ちや考えが理解できるようになり連携がスムーズに取れるようになった取り組み
  - ・子どもの嫌な気持ちを受け止め、子どもの望むことを認めることで、子どもが嫌がっていたことを受け入れるようになった取り組み
  - ・子どもの遊びを見守り観察すると、動的遊びと静的遊びの入れ替わりが分かるようになり、その時に遊びに誘うとよく遊ぶようになった取り組み
- などがあげられる。

職員は、発表の内容を聞きながら、共感したり認め合ったりして、お互いの一年をたたえ合う姿があった。

#### 『文献学習会』

(1)研修報告：「これからの私たちに求められる保育の質の向上について考える 中坪史典」

(2)参考文献：「ハンガリー-たっぴりあそび就学を見通す保育 サライ美奈」

(3)参考文献：「育児担当制による乳児保育 -子どもの育ちを支える保育実践- 西村真美」

この研修では、上記の3つを活用しながら、私たちの行っている保育を共通理解できるようにした。

まず、一つ目の確認は、「質の高い保育とは何か」だった。乳幼児期に、質の高い保育を受けた子どもは、学ぶ意欲が高く、自己抑制が高く、向社会的行動が高いと言われている。また、質の高い保育とは、「子どもを教え導くだけでも、放任するだけでもない保育」「小集団が組織されている保育」「高度だけど達成可能な、挑戦的経験を行っている保育」「子どもを中心に、保育者が様々につないで発展するようなやりとりがある保育」とされていることを確認した。これらのことを前提に、私たちの保育園で行っている保育を考えると、保育の方法である異年齢混合保育や保育の考え方は、非常に近いものがあり、私たちの保育次第では、世界が認める質の高い保育を実現できると確信が持てるものだった。

2つ目の確認は、保育の方法である「育児担当制や流れる日課」「異年齢混合保育」が、ハンガリーで生まれた社会的背景について学んだ。ハンガリーの文化や風土がもとになり、日本にはない教育制度や保育制度があることを学んだ。（子どもを大切にする＝朝ごはんの提供、病気の子どもと保護者への対応、保健師の活躍、就学猶予制度と留年、学費の無償化、学童保育の充実／伝統文化の伝承＝他民族の支配の下で、自国の文化を守り他国の文化を取り入れながら発展させていった歴史がある／強要ではなく、個人の違いを大切にする風土など）ハンガリーの「保育内容や教育内容」「社会制度」などを知ることによって、日本の保育や教育について客観的に見ることができると思い行った。

3つ目の確認は、「育児担当制や流れる日課」の内容について学んだ。具体的には、歴代の保育所保育指針に記された子どもと保育士の関係性 様々な担当制と育児担当制の違い 愛着関係の形成 各年齢の発達的特徴と保育内容、保育士の関わり 環境づくりのポイント 流れる日課と大人のフォーメーションなどを柱に丁寧に本を読み進めた。

研修は以下の進め方で行った。

- ・読み合せた内容をもとに、グループ討議と発表を繰り返し内容を深めたり共有した
- ・学年別のグループにサポーターも入り、自分が担当するクラスや同学年のもう一つのクラスの環境を観ながら、学んだことが環境構成に生かされているかを確認した

- ・ 2人1組で担当年齢の子どもと保育士になり、育児行為を再現して育児の手順を確認した

職員から寄せられた感想の一部を紹介する。

- ・ 「乳児保育の基本」「育児担当制」「環境」について一から学ぶことができ、私たちがしている保育はどういうものなのか、何を大切にしなければならないかを、新入職員や短時間職員たちと共有することができたのは本当に良かったと思います。
- ・ 研修に行ったとき、担当制をしていると聞いても、私たちがしている育児担当制と何か違うと感じていましたが、「グループ担当制」や「場所の担当制」について学んだことで、どう違うのかがよくわかりました。育児担当制は、子どもを待たせることがなく、子どもの発信に対する応答性が高く、一人一人の子どもに丁寧に援助できるということや、子どもが主体となって一人一人の興味や関心に応じてじっくりと遊びを楽しめ、子どもにとって本当に良い保育をしているのだと改めて感じることができました。
- ・ 協立保育園で取り入れている育児担当制が、子どもたち一人一人の発達段階はどこなのか「できること」「できないこと」を細かく見極め、子ども達の発達課題を把握し、援助することができる面が他の保育園と違っていると思いました。
- ・ 保育所保育指針に示された環境を基に、「保育の環境とは？」を改めて考える機会となった。休息コーナーの意味や送迎エリアを区切ることで子どもと保護者のプライベートを支えるひと時になることなど、納得できることが多かったです。
- ・ 「育児担当制」を学んで実践しているが、大切なことを見失うとすぐに「小さな一斉保育」になる可能性が高い。日々の保育の中で、幾度となく繰り返される細やかな判断が大切であり、それができるからこそ、子どもの主体性が育まれるのだと思った。
- ・ 環境づくりでは、本で確認してから実際に保育室を見に行き「何が足りないのか」「どうすればよいのか」を考えることができ、改善点が見えてきたのはよかった。

## 13. その他

### (1) 土地の取得

- ・ 保育園送迎用地；岡山市中区桜橋三丁目773番17

### (2) 建物・備品等の修理・修繕

- ・ 厨房排水系統排水管管内洗浄
- ・ スチームコンベクションオープン 軟水カートリッジ交換
- ・ 業務用掃除機ホース交換
- ・ すべり台 樹脂滑走面交換
- ・ サンヨー冷蔵庫 修理
- ・ FEクリーン水生成装置 点検・調整
- ・ 食器洗浄機 洗浄ポンプ修理
- ・ 3歳以上児用トイレ修理
- ・ 園舎 床ワックス塗替え

(3) 設備・備品等の整備

- ・南側園庭、駐車場の一体的な整備工事
- ・デスクトップパソコン(1台) 買い替え
- ・ノートパソコン(2台)・デスクトップパソコン(1台) Windows10へバージョンアップ

# 事業報告

## 岡山協立保育園事業報告

### 1. 保育方針とめざす子ども像

#### (1) 保育方針

- ・一人ひとりの子どもを大切にする
- ・父母の労働を保障する
- ・父母と園が連帯を持って、地域の人々の信頼と協力を得ながら保育の輪を広げる
- ・職員は保育の向上と充実に向けて学習につとめる

#### (2) めざす子ども像

- ・健康な子ども
- ・生活やあそびをつくりだす子ども
- ・ともだちと共に育つ子ども
- ・働く喜びがわかる子ども

#### - 私たちの保育についての考え方 -

私たちは、「一人ひとりを大切にする」という理念を持っている。集団保育の中で、一人ひとりを大切にする保育を実践するため、乳児保育では「育児担当制」と「流れる日課」を、幼児保育では「異年齢混合保育」に取り組んでいる。

乳児保育：0～2歳児

#### 「育児担当制」

子ども達は、毎日決まった大人に関わってもらうことで、情緒が安定し、落ち着きの中で深い人間関係を築いていく。そういう当たり前の暮らしを保育園で保障するために、一人ひとりの子どもに担当の保育士を決め、子どものことをより深く理解し、目に見えにくいちょっとした心の変化や、昨日と違う今日の変化も感じ取れるように心がけて保育をする。

#### 「流れる日課」

この時期の子どもの成長発達にとって、「眠り」は最も大切なもので、「眠り」を中心に、一人ひとりに合わせた一日の日課を作る。自ら眠り、おなかいっぱい食べ、しっかり遊んで、また眠る。この繰り返し、やがて生活の見通しになり、自分で生活できる力の土台（主体性）をつくると考える。

幼児保育：3～5歳児

#### 「異年齢混合保育」

3歳以上児は、3・4・5歳の異年齢混合保育を行っている。この保育は、少子化が進み地域社会が閉塞的になり、異年齢での交流が少ない現代において、子ども同士の関わりを豊かに保障するねらいがある。異年齢混合保育は、子どもの心の中にあこがれの気持ちや思いやりの気持ちを育て、自分自身に対する自己評価や自己像の形成を助ける。また、子どもたちのつながりが自然にでき、友達の見方が多面的になる。異年齢の存在があることで、子どもや保護者が、大きくな

ることへの見通しを持ちやすく、保育士も3年間の発達段階の中を生きるひとりの子どもとして、その違いにより注目し保育していくことが可能になると考える。

#### 【保育内容をとらえる視点】

保育士は、普段の保育の中で、子どもが出来るようになった「結果」だけでなく、取り組みの「過程」の中にある、子どもの「ちょっとした変化」や「心の葛藤」を、その都度言葉にして丁寧に伝えることを心がけている。また、こうした対応は、大人が子どもを「認める」といったレベルにとどまらず、行動と言葉と感情が一致することで、その子の「考え」や「思い」が明確になり、やがて自己を確立する段階で、「自己一致した人間」に育つと考えている。

この丁寧な関わりこそが、私たちの『保育の質』の中心にあるものだと考える。また、大人に変化を認めてもらうことで、自分自身の変化に気付き、よりよい自分になるとうとする意欲（向上心）を引き出すことにも繋がり、このことが「自己肯定感」を形成していく基になると考える。

保育で大切なことは、子どもがやってみたら「できたーできなかった」「面白かったー難しかった」「自信になったー不安になった」という子ども自身が感じる感情（左右対称の明確な感情ではなく、もっと複雑な心の動き）を、大人が理解し共感することである。そして、大人が理解してくれたからこそ生まれる安心感やそこを基盤とする向上心、そしてチャレンジし達成できた時の喜びが自信になり、さらなる高みを乗り越えるための新たなエネルギーになっていくと考える。

また、保育士は子どもとの関係の中で、「受容と共感」が成立していくにしたがって、より本格的な指導を展開できるようになると考える。型にはめる指導ではなく、子どもの受け取りを大切に「共感と納得」の指導は、「ここではこんなことをしてはいけない」「ここはあなたが頑張らないといけない」など、子どもの心に迫る指導が可能になる。このことによって、子どもは「自分をコントロールする力」を身につけるのだと思う。

私たちは、子どもひとりひとりをよく見て、子どもの心を支え育む保育を、これからも実践していきたい。

#### 【保育の形態】

岡山協立保育園では「就学準備型保育」ではなく、「生活基盤型保育」を実施している。子ども自身が持つ興味や関心を保育の中で発展させるため、3歳以上児の異年齢混合クラスでは、毎日「課業」を実施している。「課業」は、文学、環境認識、数学、描画と手仕事、体育の5分野がある。

特に、環境認識は、子どもの身近な知識を保育士とともに整理し、その知識を遊びに生かし、再認識する取り組みとして行っている。深い学びや対話的学び、主体的学びを実現する保育になるよう、私たちは、知識を教え込むのではなく、人や物などの環境を豊かに整え、「子ども一人一人の遊び込み」を大切にしたいと思って取り組んでいる。

子どもは自ら遊び始めるが、その姿から、その時間を過ごしているだけの「遊びっぱなし」になっていないかについての議論を始め、より深く遊びの質について学びたいと思っている。新保育所保育指針の「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をもとに、子どもの姿の中で、今どんな力が身につけているのかを語れる保育士になれるようにこれからも努力したい。

#### 【食育活動】

今年度も、3歳児以上児が、季節の食材にかかわる取り組み（筍の皮むき、グリーンピースのさやむき、トウモロコシの皮むき）を行った。

5歳児は、保育園駐車場内のひまわり畑に、季節の野菜を栽培収穫し、調理して食べる取り組みや、毎日行う当番活動では、給食の下ごしらえ当番（皮むきや野菜を切る作業）やおやつ当番などにも取り組んだ。子ども達も、保育園の給食を支える活動であることを自覚し、意欲的に取り組む姿があった。また、下ごしらえ当番は、子どもが家族の一員として家事の一部を任され、頼られる存在であってほしいという願いも込められた取り組みだ。

とくに食べることに興味の薄い子どもは、生活全般でも受身で、さまざまな経験が乏しい傾向が見られる。毎日の生活に、自分自身が関わり認めてもらえる経験は、自らの存在意義を感じる尊い経験となる。これらの取り組みは、子どもへの刺激となり、良い変化がみられることが多かった。今後も、必要な仕事を任される経験や毎日行われる生活の営みに、自ら関わることで、子どもの生活力や主体性を育む保育に取り組みたい。

## 【障害児保育】

私たちは、みんなに等しく同じだけという考え方ではなく、「必要な子どもに、必要なだけの援助を提供する」という考えが平等であると思っている。そういった中で、私たちは、子ども一人一人に合った個別の支援を大切にしている。職員会議や田中研修では、子どもの見方や対応について、本での学びやグループ討議、保育観察や事例検討などを行い、援助の仕方を具体的に学んでいる。

今年度末は、157名中7名（約4.5%）が自閉症スペクトラムなどの発達障害を抱えていた。また、診断は出ていないが療育に通っている子どもを含めると、11名（7%）が該当していた。特に、年長児（5歳児）では、31名中4名（約13%）に診断書が出ている。毎年、就学前になると増える傾向がある。そういった中、5歳児の取り組みでは、子どもの要求に細やかに対応するため、活動グループを少人数にし、時間的ゆとりを持って取り組んだ。子どもたちは、集団活動に期待と意欲をもっており、小集団での活動で仲間と共にやり遂げたいという思いから、クラスみんなで頑張る姿へと変わっていった。

一方で、3歳以上児（異年齢混合）クラスの職員配置は、以前よりも手厚くなっているが、障害児以外にも、要支援家庭が増えおり、それらへの支援に力を注ぐ必要性が高まってきている。

## 【安全対策】

### 非常時訓練

月1回の「避難訓練」「通報・消火訓練」を実施した。12月には、中区消防署旭東出張所の職員立ち会いのもと、避難訓練と水消火器を使った消火訓練、火災報知機を使った通報訓練、そして、消防自動車の見学を行った。

毎月の避難訓練の成果もあり、子ども達が静かに迅速に避難する姿を見て、消防署員が「避難時間も短く、避難態度も良かった」とほめて下さった。

「避難訓練」は、火災、地震、水害などを想定した訓練で、不審者訓練は、職員の役割や動きを書いたシュミレーションを配り、実際に職員が不審者になり訓練した。

### 非常災害時への対応

非常災害時の備蓄食料（離乳食含む）を、園児と職員で6食分、屋上に用意しているが、今年



度は、2食分の入れ替えをした。また、簡易トイレ・アルミシート・メガホン・ラジオなども準備し、岡山市より支給された「岡山市緊急告知ラジオ」も、緊急地震速報や避難勧告・指示などを伝えるものとして、設置させてもらっている。

園では、緊急時の連絡を保護者と確実にを行うための緊急メールを設置している。このシステムは、県外にメールサーバーがあり、子どもたちの安否情報を確実に伝えることが出来るとされている。

#### 事故への対策

毎年行っている、岡山協立病院職員さんによる「救命救急講習会」を6月に行った。保育園に設置してある、乳幼児や大人用のAEDの使い方や、心肺蘇生、誤飲時の対処などを、保護者を交え実践した。

### 【参観・懇談会】

保育参観（年2回）や個人懇談または家庭訪問（年1回以上）などを通じて、保育中の子どもを参観したり、子どもと一緒に保護者が活動する機会を作った。その日の午後は、担任と保護者が懇談し子どもの現状を共有するようにした。

クラス懇談会では、子ども達の普段の様子を動画で上映するとともに、子どもの発達についても説明した。また、親子で楽しめる遊びの紹介や、子育てで困っていることをアンケートで調べて話し合いのテーマにしたり「早寝、早起き、朝ご飯」の大切さについても話し合うことができた。懇談会は、終始なごやかな雰囲気だった。

#### 保護者の参加状況

- ・保育参観（保育参加）に参加した世帯数 94.1%（前年比1%減）
- ・個人懇談または家庭訪問実施した世帯 95.2%（前年比1.%減）
- ・クラス懇談会に参加した世帯 64.4%（前年比3.7%増）

#### 保護者の感想より（クラス懇談会の感想の一部を紹介）

- ・子どもの普段の様子がわかってよかった。
- ・先生がどのような取り組みで、子どもたちと接してくれているかがわかって良かった。
- ・子どもの園での様子や園での取り組み、小学校入学に向けた課題がよくわかり家庭で具体的にどうしていくか考える手立てになった。
- ・スライドショーで、元気な我が子の様子を見ることができてよかった。
- ・先生からの発達の説明が、よくわかり参考になった。
- ・いつもなかなか話の出来ない保護者の方と話すことができて、みんな同じだなと思い、安心した。家に帰り「自分だけじゃないんだ」と、少し穏やかに子どもと接することができた。
- ・同じ年の子どもをもつ親同士の悩みが似ていて、解決策もそれぞれ違って参考になった。

### 【地域との交流】

#### 高齢者との交流

5歳児が「旭東ふれあい会食」に参加し、お年寄りとの交流を楽しんだ。

#### 学童との交流

旭東小学校「子どもまつり」で、小学生が作った様々な遊びのコーナーに、子どもたちが参加

して、学童とふれあう機会を持った。

#### 地域の施設で交流

旭東児童センターでは、「民話の会」や「お化け屋敷」に参加した。

福祉交流プラザ旭東では、「コンサート」に参加した。

普段と違う場所で、楽しい時間を過ごした。

#### 他園との交流

岡山協立保育園の「劇団風の子観劇会」に、博愛会保育園、旭東保育園の年長さんが参加し、ともに楽しい時間を共有できた。

旭東幼稚園で開かれる「4園交流運動会」では、博愛会保育園、旭東保育園、岡山協立保育園が参加し、毎年運動会ごっこを楽しんでいる。今年は、旭東小学校の運動場で開催でき、のびのび活動できた。協議は、各園からの提案で構成され、子ども達は楽しく参加した。

旭東小学校図書館で開かれる「絵本の会」では、図書館司書の方が、博愛会保育園、旭東保育園、旭東幼稚園、岡山協立保育園を含む4園の5歳児に、絵本の読み聞かせをしてくれる。子どもたちは、大きな期待をもって参加している。

#### ボランティアとの交流

地域の方の特技を生かし、絵本の読み聞かせや折り紙など、子どもたちに豊かな経験や体験を保障していただいた。絵本の読み聞かせでは、子どもたちの集中力や聞く姿勢が素晴らしいと褒めて頂いた。

#### 子育て支援の取り組み

##### （園庭開放）

地域に保育園を開放する園庭開放を17回開催した。地域の子育てサークルを訪問し宣伝していくことで地域の新しい参加者が増えた。園庭開放をきっかけに、保育園に親子で足を運び、子どもたちが生活する様子を実際に見ることで、一時預かり事業の利用を希望する方も増えた。

##### （医療生協と共同の取り組み）

#### 法人

### 【父母の会活動】

役員会が、毎月1回開かれた。「おつきみ会」や「ちびっこまつり」の実行委員会や当日の準備などに保護者が積極的に参加した。また、「リユースフェスタ」「親子ねんど教室」「幼児教育・保育の無償化の学習会参加や署名活動」「父母の会バザー」などを行った。保護者の特技を生かしたり、さまざまな要求を実現し、親睦が深まった。家族や仕事のことなどを話す機会が持て、保護者同士が繋がる機会となった。

# 経営報告

## 1. 総合評価

今年度は、昨年度に引き続いて人事院勧告の上昇による委託費の単価改定が実施され、人件費分が+1.0%の改定となった。そのため、今年度は、昨年度までの人件費支給基準額に約 1,200 千円が上乘せされた。

2019年10月からの消費税増税に伴って、公定価格が改定された。また、「幼児教育・保育の無償化」により3歳以上児の副食費が公定価格から外れて、保護者の負担となったことで、利用者等利用料収入に3歳以上の副食費も含まれることになった。3歳以上児の副食費については、一定の基準により副食費減免加算が実施され、公定価格により副食費減免加算を受け入れる場合は、利用者等利用料収入（公費）で受け入れをすることとなった。

保育事業収入のうち、補助金事業収入では、一時預かり事業補助金収入が、利用者の減少により、昨年度と比較して-2,670千円となり著しく減少した。また、岡山市障害児保育対策事業補助金は、児童数に比例する補助制度が拡充されて、加配に対する人件費の補助額も創設されたため、昨年度と比較して+3,040千円の大幅な増額となった。

人件費支出においては、昨年度と比較して+1,042千円となった。その内訳は、正規職員に対する給与・賞与が+5,632千円と昨年度より大きく増加したのに対して、非常勤職員給与と派遣職員費の方は、両方で-5,376千円となり著しく減少した。正規職員の定着が進み、非正規職員の配置が減ってきていることによると推測される。

事業費支出は、昨年度より若干減少し、約 16,854千円支出した。給食費では、野菜の高騰もなく価格が安定していたことや、野菜等の地産地消を意識した仕入れの強化や調味料・乾物・豆類・粉製品等の既製品の価格比較おこない、よりよい材料をより安価に仕入れることができるよう発注先の選定を徹底したことなどが功を奏して-366千円となった。消耗器具備品費は、昨年度と比較して 428千円の増額となった。ペーパータオル・トイレトーパー・使い捨て手袋などの日常の消耗品が昨年度と比較して 482千円（コロナ感染対策用消毒類 78千円を含む）だった。器具什器類については、経年劣化による乾燥機の買い替えで約 100千円、天ぷら鍋の新規購入 22千円、コロナ対策用自動手指消毒器 79千円などの支出があったが、2018年度に経年劣化による家電等の買い替えを一通り終えていたこともあって昨年度より-176千円の支出額減少となった。その他、公定価格による施設機能強化推進加算（防災用品）による整備で防災シューズ（50足）162千円の支出やコロナ対策用のマスクへの支出があった。保健衛生費支出がコロナ感染拡大防止対策用の体温計を緊急で購入した結果、予算を約 8.5千円超えて支出することとなった。

事務費支出は、昨年度と比較して-3,522千円だった。研修研究費が昨年度と比較して-934千円と著しく減少した。毎年、2期で行っている野崎先生の保育観察研修会を一期だけにしたことや正規職員の宿泊研修会を、コロナ感染症の予防のために園内研修会に変更したことなどが大きな要因と考えられる。修繕費は、昨年度と比較して 2,141千円減少した。

施設整備においては、土地の取得に対して 22,351千円の支出があったため、保育所施設設備整備積立金を 20,000千円取り崩して、取得費用に充当した。また、南側園庭および駐車場の整備費用 2,558千円を構築物取得費用で計上した。

積立資産支出では、補正予算において、園舎の大規模修繕等に備えるための保育所施設・設備整

備積立金 15,000 千円を計上していたが、決算により 4,000 千円を増額して 19,000 千円を積み立てたことで保育所施設・設備整備積立金の現在高は 43,000 千円となった。また、人件費積立金については、約 3 か月分(約 38,000 千円)の人件費支出額を積み立てることを計画しているが、今年度は積み立てなかったため、現在高 24,000 千円のままとなっている。

法人全体の貸借対照表で前年度末と比較すると、流動資産は-1,394 千円、固定資産は+5,167 千円となった。当期活動増減差額は前年度より 2,024 千円を増額となり 19,266 千円で、経営状態は良好であるといえる。